

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第 83 号 平成 24 年 10 月 1 日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張国市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

当院外科の現況

平成23年1月1日より旭労災病院外科に赴任いたしました小川敦司です。当院外科についてご報告いたします。

当外科では井垣副院長以下、秋山部長、高野部長、私、馬場医員、藤田医員の6名でほとんどすべての外科的疾患に対応しております。また緊急手術は24時間皆様方各施設からのご紹介に対応できる体制をとっております。当科で行っていない手術は心臓手術、大動脈手術、移植手術です。以下に当院外科での主な手術と入院日数をまとめました。

臓器	術式	術後入院日数
甲状腺	甲状腺全摘	約7日
	甲状腺葉切除	約4日
乳腺	乳癌手術	約10日
肺	肺癌手術	10～14日
	気胸手術	4～7日
食道	食道癌手術	約4週
胃	胃全摘	約3週
	胃切除	10～20日
大腸	結腸癌手術	14～20日
	直腸切断術	約3週
胆嚢	胆嚢摘出術	約4日
	総胆管切石術	約10日
肝臓	肝切除術	10～14日
膵臓	膵頭十二指腸切除術	約4週
血管	動脈バイパス	7～10日
	透析用シャント	日帰り
ヘルニア	ヘルニア根治術	約3日
	乳児ヘルニア根治術	1日
虫垂	虫垂切除	5～7日
肛門	痔核根治術	約10日
	痔瘻根治術	4～6日



外科部長 小川 敦司

また鏡視下手術は胆嚢摘出術、総胆管切石術、潰瘍穿孔閉鎖術、結腸手術、胃手術、肺手術に行っています。

手術治療以外の外科治療として化学療法と緩和医療についても積極的に取り組んでいます。

化学療法は消化器癌、乳癌、肺癌症例に対して術前術後をはじめ外来通院あるいは入院でと各々の患者様のニーズにあわせて行っております。

緩和医療につきましても外科医員すべてが緩和ケア研修会を終了しており、院内緩和ケアチームと協力し病棟スタッフや外来スタッフとともに在宅から入院までの対応が出来るよう体制作りを行っております。

一般診療から救急医療あるいは緩和医療と、病診

連携を更に密なものとして皆様のお役に立ちたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

抗血栓薬服用者に対する 消化器内視鏡診療ガイドライン



消化器科部長 遠藤 雅行

本年 7 月に日本消化器内視鏡学会は、日本循環器学会、日本神経学会、日本脳卒中学会、日本血栓止血学会、日本糖尿病学会と合同で「抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン」を改定しました。従来のガイドラインは内視鏡手技による出血を一番に考慮し、いかに抗血栓薬を休薬するかに重点を置いたものでしたが、今回は抗血栓薬の休薬による血栓塞栓症の誘発に配慮したガイドラインとなりました。

通常の内視鏡(上部消化管内視鏡、経鼻内視鏡、下部消化管内視鏡など)については抗血小板薬、抗凝固薬のいずれも休薬なく施行可能です。また生検に関しても抗血小板薬、抗凝固薬のいずれか 1 剤を服用している場合は休薬なく施行してよいとされました。2 剤以上を服用している場合には症例に応じて慎重に対応するとされました。

また出血高危険度の消化器内視鏡(ポリペクトミーなど)については血栓塞栓症の発症リスクが高いアスピリン単独服用者では休薬なく施行してよく、血栓塞栓症の発症リスクが低い場合は 3-5 日間の休薬を考慮する、とされており、パナルジン、プラビックスについては 5-7 日間の休薬を原則とされており、また抗凝固療法施行中の患者においては、中断による重篤な血栓塞栓症が一定の頻度で起こるとされており、ヘパリンと置換した上で内視鏡処置を施行することとされています。

当院へ内視鏡を依頼される先生方におかれましては上記の原則に従い抗血栓薬の休薬の是非をご考慮のうえ、患者さんへの指導をよろしくお願い申し上げます。

検査	抗血栓薬	休薬リスク	休薬期間
上部内視鏡 経鼻内視鏡 下部内視鏡 (いずれも生検を含む)	1 剤内服中		休薬不要
	2 剤以上内服中	低い	アスピリン 3-5 日 パナルジン 5-7 日 プラビックス 5-7 日
		高い	観察のみ施行 所見により休薬の是非を慎重に検討し、 後日生検を行う
大腸ポリペクトミー	アスピリンのみ	低い	3-5 日
		高い	休薬不要
	パナルジン プラビックス		5-7 日
	プレタール エパデール アンブラーグ等		1 日
ワーファリン プラザキサ		事前に入院の上ヘパリン置換を検討	